

本紙読者のナナコさんより。4月30日。小平市にある東京薬用植物園では、ナンジャモンジャが満開でした。（題字の写真）八王子からこれを見るために来たと話していました！また、上谷さんからナンジャモンジャの正式名は、ヒトツバタゴ。近所の公園で枝の上に綿が載っているみたいに見えます。との投稿がありました。珍しい木ですね！

紅葉台



新聞

第182号

2025年
5月17日

発行人：関谷 孝

季節のたより ルリタテハ （2025年4月）



春になると野山や公園で蝶が目立ってきます。蝶が飛んでいる様子をよく見ているとモンシロチョウのように同じ種類が数匹で比較的まとまって行動するグループと1匹だけ単独でいる種類があることに気が付きます。今月の蝶・ルリタテハは単独で行動するタイプです。ルリタテハは珍しい蝶ではありません。黒い翅に特徴的な瑠璃色の模様が美しいタテハチョウの仲間で、よく目立ちます。ただ、翅を閉じて止まっている時は翅の裏が枯れた落ち葉のようになって、周囲の環境に擬態する（保護色）ので見つけにくく、同じチョウと思えない模様に変化します。翅を広げると65mmほどの中型の蝶です。北海道から沖縄まで日本全国に生息するチョウで、野山、里地、市街地の公園や住宅地、街路樹周辺でも見られます。成虫で越冬するため、冬の陽だまりハイクで出会うこともたまにあります。クヌギやコナラなど様々な樹木の樹液や腐った果実などを食べます。花の蜜にはあまり来ませんが、添付の写真は2024年4月に八王子の川町谷戸で咲いていた菜の花に来ていたショットです。幼虫は5齢の終齢になると、「棘の色が黒から黄白色に、体色もオレンジ色が際立ってきます。鋭い棘の数は68本あり、いかにも毒々しい姿ですが、無毒です。」と解説されています。サルトリイバラ科のサルトリイバラ、ユリ科のホトギスなどの葉を食べます。昨年9月、我が家の鉢植えのタイワンホトギスにルリタテハが飛んで来て産卵し、孵化した幼虫に蕾と葉を食べられてしまいました。ルリタテハも守りたいし、タイワンホトギスの花も見たいし、悩んだ末幼虫を駆除しました。その結果、10月下旬にタイワンホトギスが見事に復活し、綺麗な花を咲かせてくれました。

春になると野山や公園で蝶が目立ってきます。蝶が飛んでいる様子をよく見ているとモンシロチョウのように同じ種類が数匹で比較的まとまって行動するグループと1匹だけ単独でいる種類があることに気が付きます。今月の蝶・ルリタテハは単独で行動するタイプです。ルリタテハは珍しい蝶ではありません。黒い翅に特徴的な瑠璃色の模様が美しいタテハチョウの仲間で、よく目立ちます。ただ、翅を閉じて止まっている時は翅の裏が枯れた落ち葉のようになって、周囲の環境に擬態する（保護色）ので見つけにくく、同じチョウと思えない模様に変化します。翅を広げると65mmほどの中型の蝶です。北海道から沖縄まで日本全国に生息するチョウで、野山、里地、市街地の公園や住宅地、街路樹周辺でも見られます。成虫で越冬するため、冬の陽だまりハイクで出会うこともたまにあります。クヌギやコナラなど様々な樹木の樹液や腐った果実などを食べます。花の蜜にはあまり来ませんが、添付の写真は2024年4月に八王子の川町谷戸で咲いていた菜の花に来ていたショットです。幼虫は5齢の終齢になると、「棘の色が黒から黄白色に、体色もオレンジ色が際立ってきます。鋭い棘の数は68本あり、いかにも毒々しい姿ですが、無毒です。」と解説されています。サルトリイバラ科のサルトリイバラ、ユリ科のホトギスなどの葉を食べます。昨年9月、我が家の鉢植えのタイワンホトギスにルリタテハが飛んで来て産卵し、孵化した幼虫に蕾と葉を食べられてしまいました。ルリタテハも守りたいし、タイワンホトギスの花も見たいし、悩んだ末幼虫を駆除しました。その結果、10月下旬にタイワンホトギスが見事に復活し、綺麗な花を咲かせてくれました。

粕谷和夫のブログ「鳥見歩る記」

<http://kk-kasuya.cocolog-nifty.com/blog/>

粕谷和夫の観察日記



最近、直径が2~3cmで、輝くようなきれいな黄色い花を咲かせている野草が目につくようになりました。これはヒメリュウキンカでイギリスやヨーロッパ大陸の山地や林床に分布する山野草で、強健な性質と美しい花を持っているため、世界中で広く栽培されており、そのまま逃げ出して帰化植物として定着してしまします。日本でも湿った土のところ

で増え続けている外来種です。この写真は3月下旬に東京・狭山丘陵から流れ出る「残堀川」の河原で撮ったものです。



これも4月7日、多摩川の浅川合流付近の河原での出合です。エノキが開花していました。近くの華やかなサクラ並木と裏腹です。でもよく見ると新葉の下に星をちりばめたような花々が息づいていて、とても綺麗でした。エノキは江戸時代に街道の一里塚に植えられていて旅人に日影を与え、赤い実を食べて次の一里塚までの元気回復に役立っていました。エノキの葉は国蝶オオムラサキが食べ、実は野鳥のイカルの食料になっています。



4月8日、八王子・高月水田の4月野鳥定期カウントでのタンポポとの出合です。農道にナズナの白い花に囲まれたセイヨウタンポポ、その近くにシロバナタンポポも咲いていました。タンポポの根は非常に長く、地中深くまで伸びていて、生命力が強く、根が残っていれば茎を刈られてもまた伸びてくるので、毎年同じ場所で花を咲かせてくれます。逆にガーデニングや家庭菜園では、根絶しにくいちょっと厄介な雑草でもありますね。



中央線武蔵小金井駅から野川に出て第1調節池の田んぼまで行き、帰りは「はけの道」を歩いて武蔵小金井駅まで戻りました。野川はソメイヨシノが満開で素晴らしい眺め、川ではコサギ1羽が魚を狙っていました。ユキノシタの株元からアオジが出てきて餌を探し始めました。「はけの道」にはオニイタヤというカエデの古木が鎮座していました。樹周4.2mという巨体ですが「樹勢の衰えは見られず旺盛な生育を続けている」との説明を読んで力を頂きました。



この写真の上がタヒバリ、下がビンズイです。胸から腹に架けての黒い縦縞模様が共通でよく似ています。タヒバリは4月8日に高月水田、ビンズイは4月10日に長池公園で撮ったものです。タヒバリの胸から腹の赤味は冬の間はなく、そろそろ繁殖地へ帰る時期になったのでこの色に変わりました。ビンズイも新芽の木の枝に止まり繁殖地へ帰る雰囲気漂っています。両種とも無事に繁殖地までに辿り着くとい

です。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。